



幹線道路と造成地の一部

国営農地開発事業 「植松団地」が完成

総工費18,530万円 5町歩の畑と道路1,807m

山林十二町歩余を開墾する
 総工費一億八千五百三拾万円で
 国営の農地開発事業は、河辺一
 大洲一内千一五十崎の四市町村で
 約一千町歩余の農用地を造成し、
 生産性の高い近代的な農業地帯を
 つくり上げようと広域的に協調し
 て取り組んでいるものです。

事業は採択運動一調査一実施計
 画など十年近い長い年月を経て、
 昭和五十一年より大洲市で工事が
 始まり、翌五十二年から他の町村
 も同時に着手して五年目を迎えま
 した。

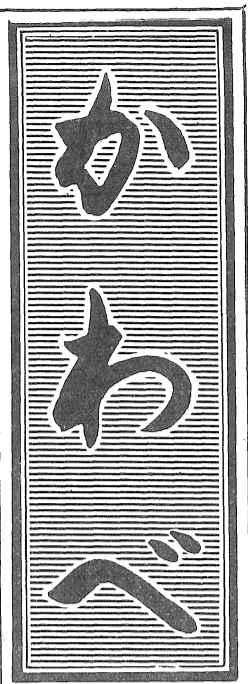
本村では、初年度(五二年)植
 松団地への道路五六一mを施工し、
 昨年八月に着工した植松団地が
 去る七月末日完成したと見られま
 す。

この植松団地の工事は、総工費
 一億八千五百三拾万円で、山林
 十二町歩余を開墾し約五町
 歩の畑と幹線道路及び、圃内道あ
 わせて、八〇七mの事業量で村
 では条件の良いところだ。

昭和六〇年を目標に四
 ○町歩を開発計画
 国営の農地開発事業は、昭和六
 〇年の完成を目標に本村での開発
 は今後約四〇町歩を計画しており
 ます。しかし、この事業で村の農
 業構造が極度に改善されたり、所
 得がいくばく倍増するなどは考
 えられませんが、村は行政の立場
 で土地基盤などの生産環境、条件
 整備を図る責務があります。

この様な事業を通して農業生産
 の原則である、「土地」「努力」
 「資本」の効果を最大にするよう
 な組み合わせをはかることにより、
 村の農業発展の足がかりにしたい
 と考えております。

事業推進に理解とご協力を
 せし、この事業推進に理解とご協
 力を頂いた農家の方々をはじめ、
 内外各機関及び工事請負者及び参
 加業者の方々に心からお礼を申し
 上げ、今後のご協力をお願いいた
 します。
 (産業開発課)



隔月発行
 河辺村公民館
 編集委員
 館報編集委員会
 ☎(089339)2311
 佐川印刷 KK
 吉田町北小路 ☎2-0600

河辺村人口動態

(S. 55. 8月1日現)

世帯数 597
 人口 2,160
 男 1,130
 女 1,030

(S. 50. 10国調)

世帯数 666
 人口 2,368

(S. 45. 10国調)

世帯数 718
 人口 2,810



山林から一区画6~7反の畑に生まれ変わる

分館対抗 バレーボール 大会開く

去る八月十七日午前九時から、
 分館対抗バレーボール大会が河
 中体育館で開かれ、藤岡館長、山本
 教育長のあいさつに続いて、昨年
 度優勝した植松男子チームを代表
 して運動選手が「村民の融和と親
 睦をはかり正々堂々と戦うこと
 を誓います」と力強く宣言しブレ
 イボール。

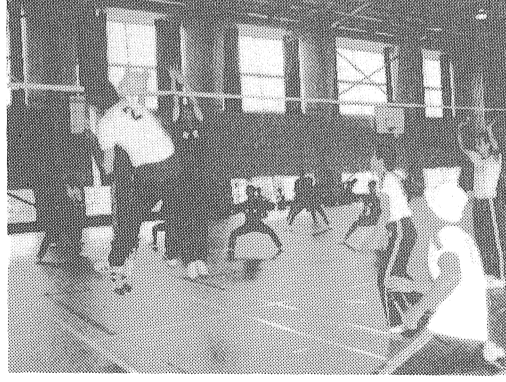
男子優	女子優
植松分館チーム	坂本
準優勝 坂本	坂本
敢闘賞 大伍	坂本
努力賞 北平	坂本
準優勝 植松	坂本
敢闘賞 大伍	坂本
努力賞 北平	坂本
ホームラン賞 角藤隆志選手二号	坂本

分館長体育指導委員を嘱

このほど分館長、副分館長、体育指導
 委員に次の方が委嘱されました。
 今後二年間、分館活動の先頭に立って
 お世話いただく方々です。
 よろしくお願いたします。

○分館長、副分館長
 植松分館 松本久雄 北川照子
 坂本 細川謙太郎 神山恵美子
 大伍 松本吉久 松井里子
 北平 山崎礼一 大野めぐみ

○体育指導委員
 上久保 守、長岡盛光
 河本 治、北地富美雄



白熱したブレイが続出

私もなつかしい故郷を離れて
 十四年になります。
 その間、名古屋や広島を転々
 としていたが、このたびは我
 社も全日空の支援を得まして、
 郷土松山に開店する運びとなり、
 私と三階と三階にある一店舗の
 店長として至らない自分にもち
 打ちながら頑張っております。
 思い出せば、高校生ななかは
 で母を失い、父と弟と男ばかり
 の家庭の温かさのない生活を後
 にした、さびしい思い出を一生
 忘れることができません。
 故郷は遠く離れば離れるほど
 懐かしいものです。
 弟と一緒に山でハンゴを仕掛
 けて小鳥を取ったり、川で魚を
 釣ったりした頃を思い出せば、
 懐かしさの余り涙することもし
 びたびでした。

私が家を出た頃は道路も悪く、
 一日一回のバス便を利用して、
 ガタガタ道を通るしかありません
 車の入らない家は数少ないよう
 です。また、あらゆる山づたい
 に網の目のように道路がはりあ
 ぐらされ、さまざまな村の施設
 が出来るなど、帰省のたびに発
 展ぶりには驚かばかりです。
 これ偏に稲田村長さんを中心
 とした住民の方々の汗の結晶
 だ、つくづく感謝するばかり
 です。

河辺の皆さま、どうか村を大
 切に守ってください。都会は決
 して住み良い所ではありません。
 人情味豊かな空気がおいしい田
 舎ほどよいところはあります。
 私も父が年ですので、父の後
 を受けて皆さまと共に故郷で汗
 を流す覚悟です。
 その節はなにとぞよろしくお
 願いたします。

やねばし

昭和十四年四月末、
 ますく戦時色の濃く
 なっていく最中に、大
 きな夢を小さな胸に抱
 いて、十六才の春に満
 州大陸へと渡った頃を
 思い出します。
 満州開拓青少年義
 勇軍。その名にひかれ
 て、誰にも相談せず志
 願手続をとり、採用通知がきて
 父からひどく叱られたものである。
 当時の教育は「忠君愛国」すべ
 てが国のためという時代であり、
 自分なりにお国のためになるう
 という気持ちでいっただけだ。
 渡満して見れば、見たはず限り
 広野の中の昌図訓練所へ入所し、
 十ヶ中隊三千名の青少年が共同
 生活を始めたのである。
 自活のための農耕作業、軍隊並
 みいやそれ以上の軍事訓練、その
 他さまざまな教育講座など、起床
 から就寝まで時間で規制された生
 活である。
 約五年間、義勇隊生活で満州各
 地の訓練所や補充馬場のような場
 転々とし、昭和十九年に軍隊に入
 隊した。
 そして下士官志願をし、獣医部
 の下士候として新京に転属。死
 んでもなるな「テッチェン」とい
 われる教育を受けた。
 卒業後は、次の候補者の教育要
 員として同隊に残留を命じられ、
 その任務遂行のために努力したも
 のである。
 しかし、夢は破れてついに敗戦
 シベリアの地に抑留の身となった。
 酷寒の地シベリアでの四年間は筆
 舌につくせぬ苦勞をしたものであ
 る。
 運あって元気で復員することが
 でき、今日まで生きてこられたこ
 とは常に自分の心の中に「お国の
 ため」という子供の時から教育
 が浸みこんでいたこと、目的を
 もって生きてきたからだと思っ
 ている。
 侵略戦争といわれ、国旗、国歌
 が云々される現在、古いとい
 われるかも知れないがこの経験
 は大切にしたと思っ今日このこ
 ろである。(F)

今年十月一日を期して、全国一斉に国勢調査が実施されます。
 お宅に調査員がお伺いした時は、ご協力をお願いいたします。

